

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成27年4月21日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語・算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。本校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

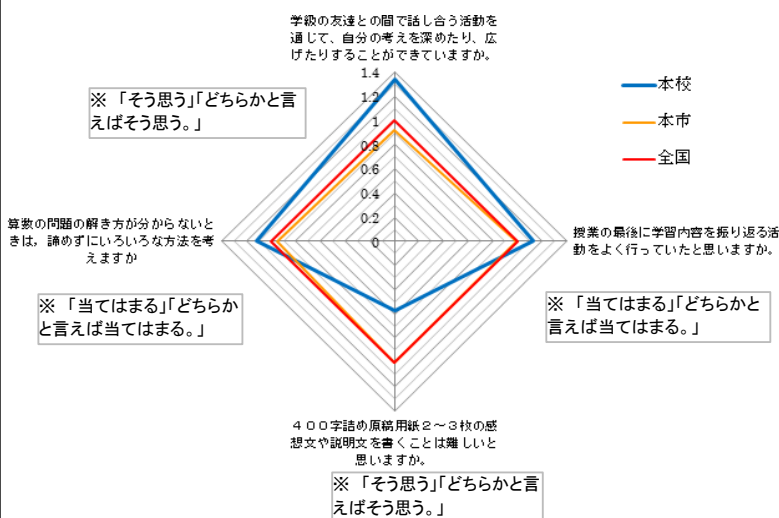
なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面だと捉えています。本校では、他の教科・領域も含め、総合的に学力向上を目指しています。

① 学力調査結果と分析

② 学校における学習状況に関する調査結果と分析

昨年度から、自分の考えを書いて整理してから説明したり、授業の終わりに振り返りを書く活動を位置づけたりして、書く活動を意図的に多く取り入れてきたため、文章を書くことに抵抗感をもっている児童が減ってきている。学習展開も工夫しているため、友達と意見交換を行ったり、自分の考えを発表したりすることにも抵抗がなくなり意欲的に学習に取り組んでいることがわかる。児童は、国語や算数、理科の学習は将来、社会にでたときに役立つと考えており、学習することの必要性を感じている児童が多い。そのため、学習中にわからないことがあるときは、あきらめずに取り組むことができるようになってきている。学ぶ姿勢が身に付いてきているため、学習内容の定着を図っていくための工夫が必要である。

本校と本市の対全国比(全国を1とする)



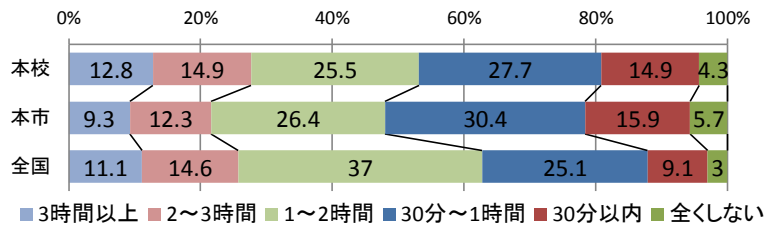
2. 家庭生活習慣等に関する調査結果の概要

① 家庭学習習慣に関する調査結果と分析

学校の授業以外に勉強している時間が増えてきているが、1時間以内の児童の割合は依然として多い。昨年度から家庭学習チャレンジハンドブックを活用しているため、自分で計画して学習に取り組むことができるようになってきている。宿題の内容を見直し、自学の力を高めていくために、継続して自主学習の取り組みを推進していく。

毎朝の読書活動や図書委員会を中心とした図書コーナーの充実、図書ボランティアの活用等々、読書活動が推進されているため、読書の機会が増えてきている。今後、読書の質を高め、言葉の知識・理解を増やしていく必要がある。

学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾や家庭教師を含む）



② 生活習慣等に関する調査結果と分析

テレビやゲーム、携帯電話、スマートフォンを行っている時間が全国・本市と比較して長いことがわかる。また、「朝、同じくらいの時刻に起きているか」という質問項目では同じくらいの時刻に起きている割合が低く、夜寝る時刻もまちまちであることがわかった。「難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦しているか」という質問項目では、全国や本市と比較して、失敗を恐れずに挑戦することができる児童が多く、物事を前向きに捉え、取り組むことができていると思われる。規則正しい生活習慣を身に付けることや、テレビやゲーム等を行う上でのルール作りを行うことが、学習意欲や家庭学習への取組の充実にもつながり、学力を向上させることができると考えられる。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

◎ 自分の考えを書くこと、話し合うことの習慣化

・学習時間に自分の考えを整理してノート等を書く時間を必ず取るようにする。また、書いたことに関しては、必ず評価するようにし、書く内容の質を高めるようにする。また、ノートをていねいに書くことができる子どもを育てるために、各クラスのノート見本を毎月1回掲示する。

・隣り同士やグループで話し合う学習場面をできるだけ取り入れ、全員が主体的に学習する場を確保する。

◎漢字の読み書きについては練習を繰り返し行う。また、日常から辞書を活用させ、言葉の意味や使い方を身に付けさせるようにする。

・全校児童による漢字検定を実施し、漢字学習に意欲的に取り組めるようにする。

・希望する児童には、給食準備時間中に個々人の課題に応じた学習を行い、苦手なことの克服を行う。

・子どもひまわり学習塾を活用し、指導員と連携を図りながら個に応じた課題を行うことができるようにする。

○国語と算数の基礎的・基本的な内容の定着を図る。

・朝のチャレンジタイムを活用し、繰り返し練習する時間を確保する。

○国語、算数の過去問題、アシストシート、活用力を高めるワークを関連単元に応じて、解く時間を設定する。

② 家庭生活習慣等に関する取組

◎家庭学習チャレンジハンドブックを活用して家庭学習の具体的な取り組み方を指導したり、保護者への啓発活動を行ったりして、家庭学習の充実を図っていく。

・月に1回必ず担任、教務主任、校長が点検し、評価する。

◎宿題の見直し

・宿題の量の見直しを図る。（国語と算数を必ずさせるようにするなど）

・自学ノートの活用。（学年の実態に応じて自学ノートを作り学校全体の取組として活用する）

○全国学力・学習状況調査の課題と取組等を保護者へ周知

・家庭教育学級や学年懇談会等で、結果と取組を説明し、家庭と連携し協力体制を整える。